

第2学年 国語科学習指導案

児童 男子16名 女子15名 計31名
指導者 大槻 奈緒子

- 1 単元名 友だちに分かるように 話そう 教材名 あったらいいな、こんなもの
- 2 単元について

■指導事項（新学習指導要領）■

- 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 <話すこと・聞くことーイ>
- 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 <話すこと・聞くことーオ>
- 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 <話すこと・聞くことーエ>

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、「わたしは なんでしょう」（1年下）で問題を聞いて質疑応答すること、「ともこさんは どこかな」（2年上）で順序よく話すことや人物の特徴を落とさずに聞くことを学習してきた。朝の会のスピーチタイムでは、日常の中で心に残ったことを友達に伝えるとともに、聞き手が感想を伝えることを繰り返し行ってきた。

児童は、1年生の時に比べて友達の話を中心して聞けるようになり、友達の前で話すことにもだいぶ慣れてきた。また、感想を伝えることができるようにもなりつつある。しかし、順序よく分かりやすく話すことや、話題に沿って話したり分からないことを尋ねたりすることは個人差があり、まだ十分とは言えない。

(2) 教材について

本単元の学習では、話し方の工夫や聞くことの大切さ、話題に沿って話し合うことで内容が充実することの意味を学ばせることをねらっている。

本教材の冒頭には「ドラえもん」のキャラクターが登場しており、児童の興味を引きやすい。また、ドラえもんの道具を参考に「あったらいいな」と思うものを自由に想像することができる。自由で楽しい雰囲気の中で意欲的に活動し、「話すこと・聞くこと」の基本的な姿勢を身につけることができる教材である。

(3) 指導にあたって

みとおす（導入）段階では、ドラえもんの道具を参考に、あったらいいなと思うものを自由に考えさせ、学習への興味をもたせる。そして、「学級の友達に自分の考えた魔法の道具を発表する」という目的意識・相手意識をもたせていく。さらに、この学習を通して、自分はどんな力を付けたのかについて話し合い、単元学習の見通しをもたせたい。

ふかめる（展開）段階では、まず、自分で考えた道具をより分かりやすく詳しくするためには、友達と話し合うことが有効であることを理解させ、ペアで話し合う学習を取り入れる。そして、考えたことを順序よく話すために、色分けしたカードを使って内容ごとにまとめていく。さらに、聞く人に分かるような話し方に焦点をあてて、ペアでほめたりアドバイスしたりする学習を繰り返し行い、話し方を身に付けさせていく。その際、自分の話し方を振り返るために、VTRやレコーダーも活用していきたい。また、話し手に顔を向けたり頷いたりするなど、聞き手の態度の大切さも単元を通して指導していく。

まとめる（終末）段階では、これまでに学習した話し方・聞き方を振り返りながら「魔法の道具発表会」を行う。発表会後には感想カードを贈り合うことで、自分の考えを友達に伝え、互いに質問や感想をやり取りする楽しさを味わえるようにしていきたい。また、本単元を通して身につけた力を、どんな場面で生かしていきたいか考える場を設け、他教科や日常生活につながるようにしていく。

(4) 研究との関連

本単元では「交流を通じた言語活動」として、「お互いの魔法の道具について話し合う」「話し方について、良いところをほめたり、直すところをアドバイスしたりする」「魔法の道具発表会を開き、感想を伝える」場を設定する。

魔法の道具について話し合う際には、簡単な話型を示すが、話型にこだわり過ぎないように楽しく話し合わせたい。そのためにも、事前に話し合う目的や話し方・聞き方について理解させてから学習に入るようにし、話題に沿って話し合うことを意識させていきたい。

- 本単元で身につけさせたい言語能力 ■話すこと・聞くこと（話し合うこと）
 - 話題に沿って話し合う力

3 単元の見どころ

- (1) あったらしいものについて楽しく空想し、友達と話し合うことで空想したものが具体的になることを知る。
- (2) 自分の考えたものについて、話し方に気をつけて発表し、みんなに知らせる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・「あったらしいな」と思うものについて楽しく空想し、友達と話し合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えたものについて、事柄の順序を考えながら聞き手に分かるように話している。 ・話し手の考えたことに対して、共感したり、分からないことを質問したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や口形に気をつけて、はっきりした発音で話している。

5 学習指導計画及び評価規準 (全 14 時間)

段階	主な学習内容	評価規準	交流を通じた言語活動
一次 (導入)	<p>みとおす (3)</p> <p>あったらしいなと思うものを空想し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラえものの道具の中で、自分が欲しい道具を挙げる。① ・「あったらしいな」と思うもの(魔法の道具)をたくさん考える。① ・どんな発表会をするのか知り、学習のめあてをもつ。① 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あったらしいな」と思うものを、一生懸命考えようとしている。 ・どんな発表会をするのか知り、学習のめあてをもっている。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ドラえものの道具の中で、欲しい道具とその理由を交流する。</p> </div>
二次 (展開)	<p>ふかめる (8)</p> <p>魔法の道具について詳しく考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えた道具の中から、友達に知らせたいものを選ぶ。① ・話合いの目的を知り、CDを使って話し合いの仕方を学ぶ。① ・ペアになって、魔法の道具について話し合う。(本時) ① 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えた魔法の道具をよりよいものにしようと、意欲的に取り組んでいる。 ・話合いの目的を知り、話し合いの仕方を理解している。 ・お互いの魔法の道具をより詳しくするために、自分の考えを述べたり、相手の話をよく聞いて質問したりしている。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お互いの魔法の道具について話し合う。</p> </div>
	<p>魔法の道具をカードにまとめ、練習や発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す事柄ごとにカードにまとめる。① ・どのような順序で発表するか考える。① ・聞く人によく分かる話し方を考える。① ・二人組になり、交代で話す練習をする。② 	<ul style="list-style-type: none"> ・魔法の道具について、事柄ごとにカードにまとめ、話す順序を考えている。 ・聞く人に分かるように話し方を考え、発表の練習をしている。 ・話し方、聞き方について意識し、よりよい発表会にしようとしている。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>話し方について、良いところをほめたり、直したりする。</p> </div>
三次 (終末)	<p>まとめる (3)</p> <p>魔法の道具発表会をして、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魔法の道具発表会を開く。② ・感想カードを贈り合い、発表会の感想をまとめる。 ・本単元のまとめをする。① 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に分かるように、まとまりごとに順序よく話している。 ・大事なことを落とさずに聞き、質問や感想を話している。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>魔法の道具発表会を開き、感想を伝える。</p> </div>

6 本時の指導

(1) ねらい

お互いの魔法の道具をより詳しくするために、話し合うことができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導・支援と評価
みとおす (5)	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">まほうのどうぐがくわしくなるように、友だちと話し合おう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目的意識（魔法の道具発表会に向けて学習していること）、本時の目的意識（お互いの魔法の道具をより詳しくするために話し合いをすること）を確かめる。
ふかめる (35)	3 話し合いの仕方を確かめる。 【話し合いじょうず】 <ul style="list-style-type: none"> ■ 仲良く話し合う ■ 相手が話した内容について質問する ■ 頷きながら、しっかり聞く ■ 相手に分かるように話す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">交流を通じた言語活動</div> 4 魔法の道具について話し合う。 (ペア交流) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><話し合いの例> (モデル)</p> <p>A: Bさんがあったらいいなと思うものは何ですか。</p> <p>B: わたしは、空を自由に飛べるものがあったらいいなと思います。雲の上を散歩できたら楽しいからです。</p> <p>A: そうですね。どうやって飛ぶのですか。</p> <p>B: 背中に、魔法の羽を付けてパタパタ飛びます。</p> <p>A: いいですね。どんな形をしているのですか。</p> <p>B: とんぼの羽のような形をしています。</p> <p>(中略)</p> <p>B: Aさんがあったらいいなと思うものは何ですか。</p> </div> 5 上手な話し合いをしている二人組を見て、気付いたことを発表する。(全体交流) 6 相手を代えて、もう一度話し合う。 (ペア交流)	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した話し合いの仕方について、紙板書で振り返る。 悪いモデルを提示し、どのような質問をすれば良かったのか考えさせる。 相手が話したことについて質問することが、よい話し合いだということに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 1回の話し合いを10分程度とする。 話し手は自分が考えた魔法の道具とあったらいい理由を話せるようにする。 聞き手は相手の考えを尊重しながら、相手の話を受けて質問ができるようにする。また、相手が悩んでいたらアイデアを話しても良いこととする。 話型にこだわり過ぎないように、のびのびと話し合えるようにする。 質問ができるよう、しっかり聞くことを意識させる。 上手な話し合いをしているペアをほめて自信をもたせる。 話し合いがうまく進んでいないペアには、板書を手掛かりにして質問させたり、ワークシートの絵を使って説明させたりする。 話し合って詳しくなったところを付箋に書き、ワークシートに貼る時間を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 話し合いが円滑に進んでいるペア、詳しくする質問をしているペア、アイデアを出しているペアを紹介し、良かった点を確認する。 2回目の話し合いで詳しくなったところも、付箋でワークシートに加えていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><評>お互いの考えたものをより詳しくするために、自分の考えを述べたり、相手の話をよく聞いて質問したりしている。</p> </div>

ま と め る (5)	7 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目よりも話合いが上手になったペアを紹介し、成長を認め合う。 ・本時の学習（話し方、聞き方、詳しくなったか）を振り返り、感想を発表する。
	8 次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、順序良く発表するために、事柄ごとにカードにまとめていくこと知らせる。

(3) 交流場面の設定

項 目	内 容
場面・形態	ペア → 全体 → ペア お互いの魔法の道具について話し、質問する。
ねらい	自分の考えを述べたり、相手の話をよく聞いて質問したりして、お互いの魔法の道具をより詳しくする。
留意点	話型にこだわり過ぎないように、のびのびと話合いをさせる。 質問ができるよう、しっかり聞くことを意識させる。
教師の動き	上手な話合いをしているペアを褒めて自信をもたせる。全体の場で紹介する。 話合いがうまく進んでいないペアに声をかける。

(4) 本時の具体的な評価

A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	努力を要する場合の手だて
お互いの魔法の道具が詳しくなるように、自分の考えを進んで話したり、相手の考えを聞いて質問したり、アイデアを出したりしている。	お互いの魔法の道具が詳しくなるように、自分の考えを話したり、相手の話を聞いて質問したりしている。	質問ができない子には、板書を手掛かりにするよう声をかける。 質問に答えることができない子には、絵を使って説明させる。